

国際社会に与えられた 8つの宿題

全ての人が安全で豊かな生活を
送れるように。

今から14年前、国際社会がそんな
社会の実現を目指して、8つの
目標を定めた。「ミレニアム開発目
標 (Millennium Development
Goals: MDGs)」文字通り、20
00年というミレニアムの年に設
定された世界共通の目標だ。

栄養バランスの良い食事を取り、
学校に行つて勉強をする。蛇口を
ひねればいつでも水が出て、病氣
になれば近所の病院でお医者さん
が診てくれる。そんな私たちにと
つての「当たり前」が、開発途上国
ではそうではない。世界では今、
50億人以上が貧困に苦しんでいる
という現実がある。

この状況をなんとかしなければ
ならない。日本をはじめ各国の
援助機関や国際機関は、長年にわ
たりさまざまな協力を行ってきた。
しかしそれだけでは、何か、足り
ない。そんな声が上がりが始めたの
が1990年代だった。

その解決策として、国際社会が
2000年に打ち出したのがMD
Gsだ。

世界の現状、立ち向かう課題を
みんなで共有し、状況改善のため
に達成すべき目標を数値化する。こ
こまで大規模な開発目標の設定

は、世界初の試み。達成期限は15
年後、2015年だ。

そして14年の月日が流れた今、
その達成状況はどうなっているの
だろうか。

「国際社会が丸となって取り組
みを進めたことで、世界全体では
1日1・25ドル以下で生活する
人は半減し、安全な水へのアクセ
ス、就学率も改善されました。そ
の一方で、国や地域間で進捗の格
差があり、達成が危ぶまれる目標
もあります」。国連開発計画 (UN
DP) の近藤哲生駐日代表はそう
話す。途上国の成長の裏側では、
都市と地方、男女間の格差が拡大。
5歳未満児や妊産婦の死亡率もま
だ高く、トイレなど衛生施設の普
及も目標には届いていない。

ポストMDGsで 日本が果たすべき役割

MDGsの達成期限である20
15年を前に、その先を見据えて
国際社会は動き始めた。それが「ポ
スト2015開発アジェンダ(ポスト
MDGs)」の設定。目まぐるしく
変化する社会の中で、MDGsで
達成の難しい項目、新たに考慮す
べき課題を洗い出し、MDGsに継
ぐ目標の設定が進められている。
今年の9月までには、その大枠を
決定する予定だ。

日本もその議論に積極的に関わ
っている。その中で盛り込むべき

2000年に誕生した「ミレニアム開発目標 (MDGs)」。
国際社会が貧困撲滅を掲げて定めたこの目標は、
果たしてどこまで達成されたのか。
そして、私たちが新たに立ち向かうべき課題とは。

編集協力：近藤哲生 国連開発計画 (UNDP) 駐日代表
参考：「国連ミレニアム開発目標報告 2013」他

特集 ミレニアム開発目標 (MDGs)

みんなで幸せな社会をつくらう



GOAL7
環境の持続可能性を確保

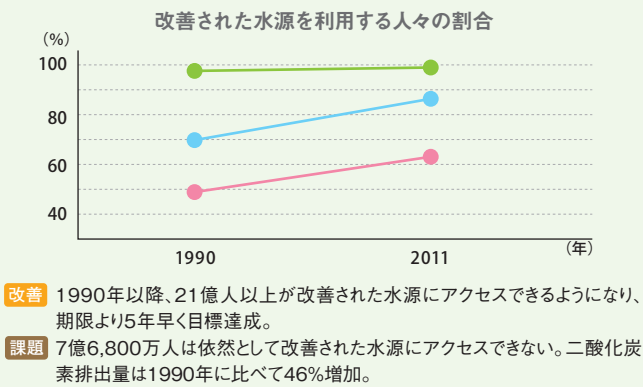
★持続可能な開発の原則を国家政策やプログラムに反映させ、環境資源の損失を阻止し、回復を図る。

★2010年までに生物多様性の損失を確実に減少させ、その後も継続的に減少させる。

★2015年までに安全な飲料水と衛生設備を継続的に利用できない人々の割合を半減させる。

★2020年までに少なくとも1億人のスラム居住者の生活を大きく改善する。







GOAL8
開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

★開放的でルールに基づく、予測可能で差別のない貿易・金融システムを構築する。

★後発開発途上国の特別なニーズに取り組む。

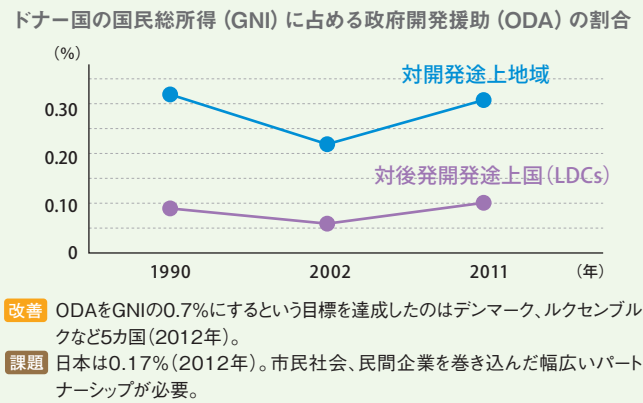
★内陸国および小島しょ開発途上国の特別なニーズに取り組む。

★国内および国際的な措置を通じて途上国の債務問題に包括的に取り組み、債務を長期的に持続可能なものとする。

★製薬会社と協力して、途上国で人々が安価で必要不可欠な医薬品を手に入れるようにする。

★民間セクターと協力して、特に情報・通信での新技術による利益が得られるようにする。





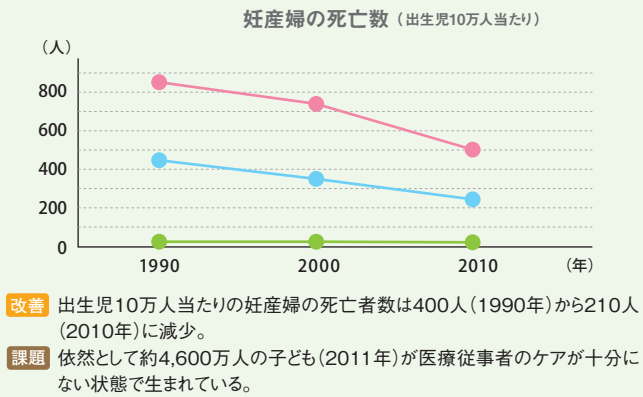


GOAL5
妊産婦の健康状態の改善

★2015年までに妊産婦の死亡率を4分の1に引き下げる。

★2015年までにリプロダクティブ・ヘルス(性と生殖に関する健康)の完全普及を達成する。







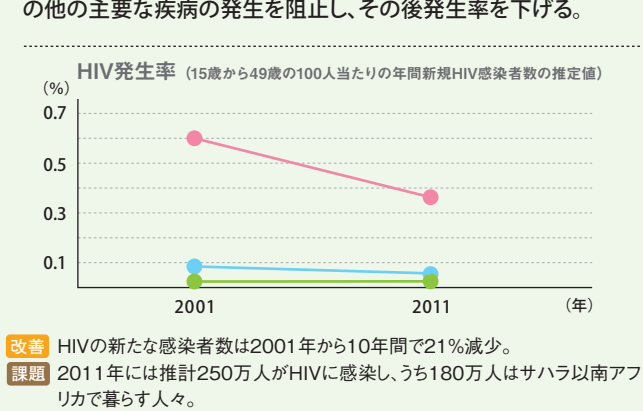
GOAL6
HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病のまん延防止

★2015年までにHIV／エイズのまん延を阻止し、その後減少させる。

★2010年までに必要とする全ての人がHIV／エイズの治療を受けられるようにする。

★2015年までにマラリアやその他の主要な疾病の発生を阻止し、その後発生率を下げる。





アジェンダを確実に達成していくためには、国際機関、援助機関の連携を深めることが必須です。その中でも、日本のきめ細やかな援助に対する評価は高い。現場での地道な人づくりが、確実に成果を生んでいるからです」と近藤代表。さらに、世界が抱える課題が多様化している今、民間企業や地方自治体、NGOなどの協力も不可欠。みんなで力を合わせれば、目標達成もそう遠くはないはずだ。

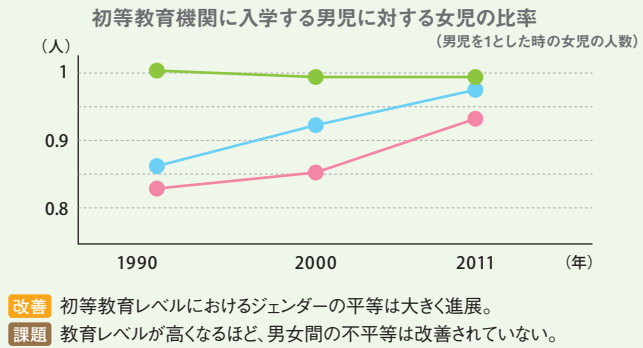
10年前も今も、私たちが目指すものは変わっていない。全ての人が平等に幸せを感じることのできる社会。その実現のためにすべきことは、まだまだたくさんある。



GOAL3
ジェンダー平等の推進と女性の地位向上

★2005年までに可能な限り、初等・中等教育で男女格差を解消し、2015年までに全ての教育レベルで男女格差を解消する。



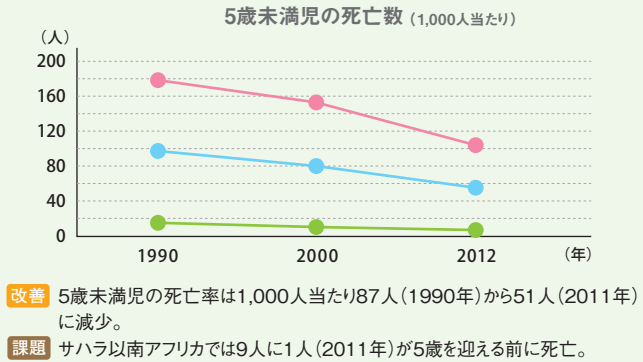




GOAL4
乳幼児死亡率の削減

★2015年までに5歳未満児の死亡率を3分の1にまで引き下げる。





「MDGs、ポスト2015開発から期待されている分野だ。そして著しい経済成長に伴い、加速化する都市化への対応策が「持続可能な都市開発」だ。途上国の都市では、慢性的な渋滞や排気ガスによる大気汚染、電気や水道など生活インフラの未整備が、住民の生活に弊害を及ぼしている。成長と開発を両立し、より良い社会を実現していくために、日本をはじめとした先進国の経験が求められているのだ。その他にも、女性のエンパワーメントやジェンダー平等の推進、高齢化社会への対応など、日本の経験を生かして取り組むべき課題は山積している。



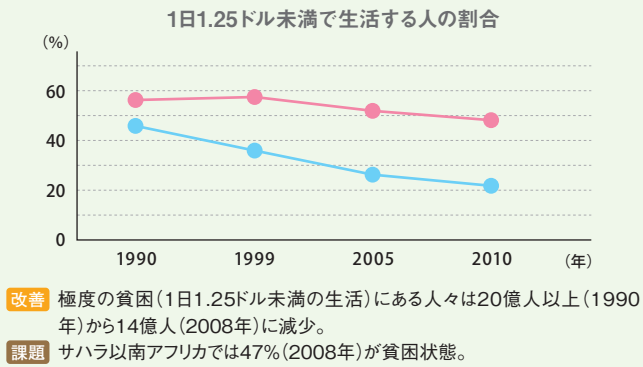
GOAL1
極度の貧困と飢餓の撲滅

★2015年までに1日1ドル未満で生活する人口の割合を半減させる。

★女性、若者を含む全ての人の、完全かつ生産的な雇用、適切な仕事の提供を達成する。

★2015年までに飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる。



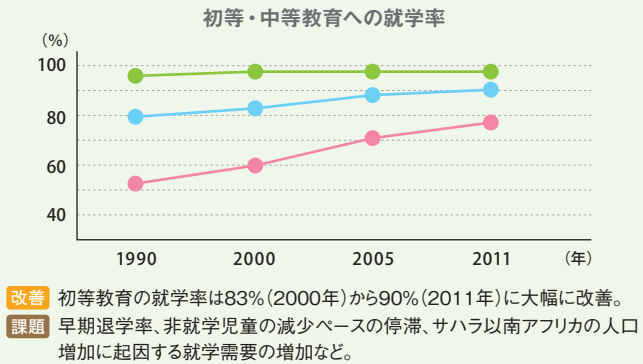




GOAL2
普遍的な初等教育の達成

★2015年までに全ての子どもが男女の区別なく、初等教育の全課程を修了できるようにする。





項目の一つとして強調しているのが、「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)」の実現だ。全ての人が必要な時に、支払い可能な費用で保健医療サービスを受けることができるように。国民皆保険制度を達成した日本だからこそできる協力を推進している。

また「防災」の対策強化も重要だ。一瞬のうちに、生活の全てを奪ってしまう自然災害。インフラなどが整っていない途上国では、その被害はさらに拡大してしまう。これまで大規模な地震や台風などを経験し、数多くの苦しみと困難に直面してきた日本。その知見を途上国と共有することは、災害多発国としての責務であり、国際社会からも期待されている分野だ。